

沖縄戦で米軍の上陸地点となった北谷は、戦禍によって生活基盤が灰燼と化した上、終戦と同時に村全域が米軍の占領地となりました。1946(昭和21)年10月から徐々に村域が解放されますが、平坦な土地は軍用地として利用され、人々は起伏の激しい山間谷間に居住せざるを得ませんでした。

写真は1973(昭和48)年頃の桑江区一体の開発の様子です。現在の町営グラウンド辺りからポリテクセンター向けに撮影されています。

当時、北谷村域の65%が軍用地として利用され、慢性的に住宅地が不足していました。そこで、1968(昭和43)年頃から民間企業や個人によって字吉原および字桑江の山地開発が進められ、商店、村営住宅、職業訓練校などが建設されました。さらに、1970(昭和45)年6月に嘉手納基地の一部(伊平・上勢頭)が返還され、コザ市(当時)と国道58号を結ぶ県道23号線(国体道路)が開通したことで、基地により分断されていた行政区間のアクセス性が向上しました。



公文書館では北谷に関する資料を収集しています。資料の種類や新旧に関わらず、ご寄贈や情報提供などのご協力をお願いします。

